

製品名: ULBP2 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82327**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ICC 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	27.4kDa

抗原情報

遺伝子名	ULBP2
別名	N2DL2; RAET1H; RAET1L; NKG2DL2; ALCAN-alpha
遺伝子 ID	80328.0
SwissProt ID	Q9BZM5
免疫原	大腸菌で発現したヒト ULBP2 (AA: 26-216) の精製された組み換え断片。

背景

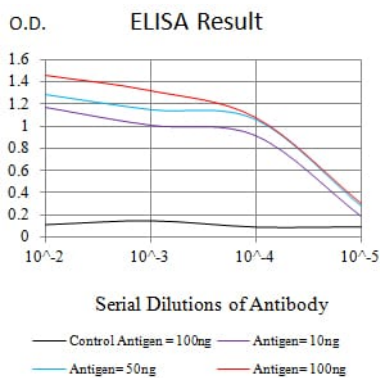
この遺伝子は、主要組織適合遺伝子複合体（MHC）クラス I 関連分子をコードしており、ナチュラルキラー（NK）細胞上の NKG2D 受容体に結合して複数のサイトカインおよびケモカインの放出を誘導し、NK 細胞のリクルートメントと活性化に寄与します。コード

されたタンパク質はさらに処理され、成熟タンパク質が生成されます。成熟タンパク質は、グリコシルホスファチジルイノシトール部位を介して膜に固定されるか、分泌されます。多くの悪性細胞は、NK細胞による免疫監視を回避するために、コードされたタンパク質を分泌します。この遺伝子は、6番染色体上の複数のMHCクラスI関連遺伝子のクラスターに位置しています。[RefSeq提供、2015年7月]

研究分野

-

画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)